掲載日：2019年08月27日，面名：総合２面，

帯広空港 利用2000万人

開港38年、節目客に記念品

とかち帯広空港の旅客利用者数が26日、開港以来2000万人に達した。とかち観光誘致空港利用推進協議会（会長・米沢則寿帯広市長）は同日午後にセレモニーを開き、東京都在住の会社員藤原一雅さん（40）の家族に記念品が贈られた。

市長「笑顔あふれる場に」

2000万人に達したのは、午後0時15分東京（羽田）発のエア・ドゥ65便で、帯広に同1時50分に到着。米沢会長と、とかち観空協の梶原雅仁、高橋勝坦、高橋正夫の3副会長、エア・ドゥの池田透営業部長が出席し、節目を祝った。

2000万人目は一雅さんと妻裕美子さん（38）、長男悠太君(7)、次男滉(こう)ちゃん（4）の4人家族。米沢会長から悠太君と滉ちゃんにお菓子の詰め合わせと縫いぐるみなどが贈られた。

藤原さん一家は夏休みを利用し旅行で帯広を訪れた。帯広空港を利用するのは初めてという一雅さんは「(空港の)歴史があることを知っておめでたい気持ちになった。食べ物がおいしい季節と聞いたので、北海道を楽しみたい」と話していた。6泊7日の日程でトマム(上川管内占冠村)などを訪問する予定という。

セレモニーで米沢会長は「これまで38年間地域の皆さまや航空関係者に支えられてこの日を迎えることができた。今後も笑顔あふれる空港へと成長していけるよう取り組みたい」とあいさつした。

とかち帯広空港は1981年に開港。十勝・帯広の空の玄関口として利用され、96年に500万人、2003年に1000万人に到達。近年はダブルトラッキング化などを背景に東京線の利用者が増加傾向で、2018年度末までに1972万3501人と大台に迫っていた。（川野遼介）

▶動画は電子版で

2000万人目の旅客利用者となり記念撮影する藤原さん一家（新井拓海撮影）